

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

謹 賀 新 年



■表紙写真 題名：木材切り出し 撮影場所：静岡市葵区落合 撮影者：寺田 稔氏（静岡市駿河区）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL：<http://www.morito hito.jp>

- 2 謹賀新年
公益社団法人 静岡県山林協会 会長 鈴木 康友
静岡県知事 川勝 平太
- 3 支部だより①
災害に強い強じんな森林づくりを目指して
- 4 支部だより②
県単独林道事業（森林作業道開設）の事例紹介
- 5 支部だより③
天竜材・FSC材を売り込め

- 6 県庁だより①
木材の安定供給を通じた地域振興に向けて
- 7 県庁だより②
本県林業、新たなステージへ
- 8 本部情報
- 8 事務局だより

謹賀新年



公益社団法人 静岡県山林協会
会長 鈴木 康友

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

会員はじめ関係者の皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、当山林協会の各種事業の推進並びに運営につきまして、多大なるご協力とご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、4月に消費税率が8%に変更されるという大きな動きがありました。前年までのかけ込み需要の反動により、住宅着工件数が軒並み減少し、住宅産業及び林業・木材産業にとって非常に厳しい年となりました。

一方、喜ばしいニュースもありました。12月に県内で大型合板工場が稼働し、県産材の需要増が期待されます。本年3月からはJAS製品の生産が開始される見込みと伺っています。

また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックも木材需要拡大では、大きなチャンスです。オリンピックの開催には環境配慮が求められ、とりわけ近年では、関連施設の整備に木材が多用される傾向にあると聞いておりますので、関係者が一丸となって要望活動を行う必要があります。

静岡県は、豊かな森林を背景に伝統的に林業の盛んな地域です。今後につきましても、多方面で木材需要を喚起し、林業及び木材産業を発展させることで、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

当協会は、県民の利益増進のため、「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでおります。本年も会員皆さま方の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びにあたり、会員皆さまの益々のご健勝とご活躍とを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



静岡県知事
川勝 平太

“森林の都 しずおか”の実現に向けて

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしく新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

本県は、天竜美林に代表されるスギ・ヒノキの人工林、富士山や南アルプスの天然林など、豊かで多彩な森林が県土に広がっています。

県では、この森林資源を活用し、森林・林業の再生を図るため、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」を展開しています。これを受けて、県内各地の製材工場が生産規模を拡大したほか、富士市内で整備が進められていた合板工場が生産を開始するなど、本年3月には50万立方メートルの丸太の受入体制が整う見込みとなりました。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた施設の整備により、新たな木材需要が生まれようとしています。国産材の使用が提案されている中で、本大会が開催される首都圏に近い本県にとっては、県産材の需要拡大の大きなチャンスとなります。このため県産材の一層の利用促進に向けて、低コスト生産システムの普及を推進することなどにより、安定供給体制の確立を図ってまいります。

一方、近年頻発する自然災害に対しては、治山事業や森の力再生事業の積極的な実施などにより、災害に強い森づくりを着実に進め、自然との共生を図りながら安全安心な暮らしの実現に向けて取り組んでまいります。

今後も、森林を守り、育て、活かす「森林との共生」に取り組むことで、「環境」「経済」「文化」が調和した「森林の都 しずおか」を目指してまいりますので、貴協会をはじめ、関係の皆さまにおかれましては、本年も積極的な御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

平成27年 元旦

平成27年 元旦

支部だより①

災害に強い強じんな森林づくりを目指して

小山町農林振興課

平成22年の台風9号により小山町は未曾有な山地災害が発生しました。その復旧に向けた取り組みについて紹介していただきました。



▲小山町の景観

山地災害の発生

小山町は、平成22年9月8日（台風9号）において記録した日最大降水量490mm、1時間最大降水量118mmの豪雨により、山地災害が多発しました。

町内では、その後も連続して豪雨災害が発生し、急峻な地形とスコリア土壌による、脆弱な地質も相俟って山地災害箇所は、依然として拡大傾向にあります。



▲山地災害の状況

復旧に向けて

平成22年の災害以降、脆弱となった町内森林では、山腹崩壊や富士山火山灰のスコリア土砂の流出など、山地に起因する災害が頻繁に発生する状況となっており、復旧には概算で100億円以上かかると言われております。

小山町では、平成25年度から森林

に起因する災害の発生防止や被害軽減対策等の取り組みの情報を関係者で共有し、対策を進めることを目的として、「小山町山地強靱化総合対策協議会」を設置しました。

山地強靱化に向けて

協議会では、山地強靱化に向けて「治山工事による災害箇所の復旧」「山林所有者による山腹崩壊の未然防止」「森林整備による山林の多面的機能の回復と向上」の三本柱で取り組んでいます。

治山工事による復旧

治山工事による復旧には、県と町で復旧に向けた取組を実施してきたところですが、荒廃が大規模である点とスコリアの特殊地質である点から復旧には、相当な事業費と高度な技術が必要になることが見込まれています。そのため、平成27年度から国による民有林直轄治山事業の導入に向けて、取り組んでいます。

山林所有者の取組

山林所有者による、山地災害の未然防止のため、所有者自身が自分たちでできる森林整備工法を学び、体験しています。



▲山林所有者による森林整備体験

森林整備と山地強靱化

町内の森林は、戦後に植栽した木が伐期を迎え、高い密度で生育しており、山肌には、下層植生も生えず、暗い山となっていました。

そのため、山林の保水能力も低く、下草の根による緊縛効果がない状態と、スコリア土壌であるため、言わば「崩れやすい山林」となっていました。

そこで、間伐事業を実施し、山林の光環境を改善し下層植生の回復による、山林の保水力の向上と下草の根による緊縛効果の発揮により「崩れにくい山林」を目指しています。

木材流通加工システム

平成23年度に、開設された富士総業㈱の「木質ペレット工場」、平成25年度には(有)小寺製材所の最新鋭の「製材工場」と静東森林経営協同組合の「原木流通センター」が整備されました。

伐期を迎えた木材をより有効に活用できるシステムが整いました。



▲小山町の木材流通加工システム

おわりに

小山町は、平成22年に局所激甚災害に指定される事態となりました。山地災害の復旧、被害軽減対策及び森林整備の推進に向け、取り組んでいます。今後とも、関係機関との連携をより一層強化し、災害に強い強靱な森林づくりを目指していきます。

支部だより②

県単独林道事業(森林作業道開設)の事例紹介

中部農林事務所森林経営課

新たに創設された標記事業を活用した「谷ノ沢日向・ヲヲダア線」の作設事例について紹介していただきました。

1 はじめに

木材を安定的かつ低コストに搬出させるため、一体的な施業が可能な森林のまとまりを確保し、路網と林業機械を組み合わせた作業システムを確立していくことが大切です。路網としては、大型トラック等が通行し木材生産や森林整備の幹線となる林道と、木材生産の作業効率向上や木材搬出の直接的な基盤となる森林作業道があります。

県は、森林作業道の整備を進めるため、平成25年度から、認定林業事業体に対し基幹的な森林作業道整備へ助成する県単独林道事業(森林作業道開設)に対する助成制度を創設しました。

2 管内の状況

中部農林事務所管内である静岡市の林道延長は、約463km、作業道延長は約300km(H25作業道現況調査による)となっています。今まで森林整備事業等、その他様々な補助事業の活用により事業体や森林所有者が作業道の作設を行っているところですが、今年度、前述した県単独林道事業(森林作業道開設)を活用して、4路線の整備を進めています。具体的な採択要件

事業主体	静岡県林業事業体改善計画認定要領に基づく認定事業主
規格	林道規定の3級自動車道に準じた道とすること
全体計画延長	200m以上
事業期間	おおむね3年以内
条件	事業着手から2年以内に利用間伐を実施する路線 又は、森林経営計画に登載された路線
補助率	100% (補助額14,000円/以内) ※実行経費と積算経費の比較が必要
その他	開設後も善良な維持管理を行うこと

的には、谷ノ沢日向・ヲヲダア線(葵区岩崎)、水見色高山線2(葵区水見色)、ミズオ沢線(葵区大沢)、宍原南幹線2号線(清水区宍原)があげられます。

3 森林作業道「谷ノ沢日向・ヲヲダア線」の事例

現在、井川森林組合が、森林作業道「谷ノ沢日向・ヲヲダア線」の作設を行っています。この路線は、「県民の森」にある既設作業道の途中を起点として、その奥にある私有林につながる全体計画延長約4kmで計画されています。急傾斜な箇所には、丸太組路肩擁壁を設置し、なるべくコストをおさえながら壊れにくい道づくりを苦労しながら行っています。道を整備することにより、今まで手の入らなかった森林で、林業機械を活用した効率的な施業を実施し、持続的な森林経営に繋げていくことを考えています。

さらに、この地区において、プラスとなりそうなことを2点ほどあげてみます。

① 森林経営計画について

この森林作業道をきっかけにして、井川地区で初めての森林経営計画を

立てようとする動きが出てきました。また、静岡市において、森林経営計画の新しい要件である「区域計画」の運用が、今年度の途中から開始されることになったため、これをきっかけに森林経営計画の樹立エリアが広がっていくことが期待されます。

② 林道「竹ノ沢線」の改築工事について

林道「竹ノ沢線」は、井川地区(口坂本)と下流にある集落を結ぶ延長12.1kmの森林基幹道ですが、木材を搬出する車両等の通行の安全を確保するため、平成25年度から県営工事による改築(拡幅、法面改良、舗装)を行っております。事業が完了する平成30年度頃には、木材の運搬路としての機能やアクセスの向上が図られ、井川地区にとって追い風になると考えられます。

5 おわりに

森林作業道を始めとした路網整備は、林業振興と密接な関係にあります。木材の増産が叫ばれる中、その基盤となる路網整備の重要性は、ますます増してきています。当課では、様々な関係者と連携をはかりながら、林道の工事や県単独林道事業(森林作業道開設)による支援を行っていきたくて考えておりますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。



▲森林作業道「谷ノ沢日向・ヲヲダア線」の施工状況



▲林道竹ノ沢線の舗装の施工状況

支部だより③

天竜材・FSC材を売り込め

～2020年東京オリンピック・パラリンピックでの使用を目指して～

浜松市産業部農林水産政策課

天竜材・FSC材を売り込む取組として昨年11月中旬に開催された住宅・建設関連専門展示会への出展について紹介していただきました。

平成22年3月、浜松市は、FSC® 森林認証を市内6森林組合及び県、国等とのグループ（天竜林材業振興協議会）で取得しました。その後、取得面積は拡大し、現在、市町村別取得面積では、全国第1位の約43千haを誇っています。

また、FSC材を取り扱うことが可能なCOC認証取得業者数は60に近づき、全国で最もFSC材の供給体制が整備された地域となりました。

このような中、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まりました。国際認証であるFSC認証の取得を進めてきた本市では、天竜材・FSC材を売り込む絶好のチャンスと捉え、現在、関係機関に対して東京オリンピックでの天竜材・FSC材使用に関する要望活動を進めています。



▲下村文部科学大臣（右から2番目）に要望書を手渡す鈴木市長（右から3番目）（平成26年6月）

昨年11月中旬、この取組のひとつとして、浜松市では、「Japan Home & Building Show2014」に参加・出展しました（天竜林材業振興協議会として参加）。これは、日本最大規模

の住宅・建築関連専門展示会です。

○日時

平成26年11月12日（水）～14日（金）

○場所

東京ビッグサイト（東京都江東区有明）

○参加者

浜松市職員、市内6森林組合職員



▲会場の東京ビッグサイト。その広さにビッグリ!?

本市では、FSC取得後、市内及び近郊でのPR活動を進めてきましたが、全国規模のブース展示は初めての試みでした。関係者から「非常に展示レベルが高い」と聞いていたため、当初、正直腰が引けていました。

ただ、森林組合関係者の強力なサポートで他と比べても見劣りしない展示ができたと感じています。側面に配置したスギパネルの調整をしてくれた引佐森組：森下さん、FSC看板や学童机・椅子の手配をしてくれた天竜森組：平山さん、宮内さん、手作りで協議会看板を仕上げた水窪森組：上出さんなど、関係者のみなさん、本当にありがとうございました。



▲完成したブース

満足な展示ができた反面、説明の難しさを感じた3日間でもありました。天竜材の魅力をどのように伝えるか、そして、いかに天竜材を使ってもらうか、オリンピックの使用につながるか… など。

今後の課題として、展示や説明の方法を含め、天竜材・FSC材を『売る』ための工夫が必要だと感じました。これには、市内の加工・流通・建築等の関係者と連携し、「オール浜松」で検討していく必要があります。



▲森林組合スタッフの説明の様子

今後も浜松市は、天竜材・FSC材がオリンピックで使用されるよう、また、全国的な販路拡大を図るため、関係機関に働きかけていきます。

そして、私は、6年後、『天竜材が使われた施設でオリンピックを見よう』ツアーができればいいなあ…と、夢を膨らませて業務を進めています。

県庁だより①

木材の安定供給を通じた地域振興に向けて

交通基盤部森林局森林整備課

県の森林整備課からは原木の生産と流通を一体的に創造するプロジェクトのポイントについて紹介していただきました。

はじめに

県では、平成24年度に「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト(以下、「プロジェクト」という。)」を開始し、今年度で3年目になります。県内の人工林のうち、8割以上が利用時期に達しており、この充実した森林資源を背景に、平成29年の県内素材生産量50万m³を目標に掲げ、森林の持つ多面的機能の発揮と林業の活性化による地域振興を図るため、県産材の需要と供給を一体的に創造する取組を進めています。

木材増産プロジェクト

森林整備課では、このプロジェクトの中で原木の生産と流通に関する取組の企画・運営を担当しており、主に計画的な木材生産の実現と効率的な流通システムの整備に関する支援を行っています。

森林組合をはじめとする県内の林業事業者や関係団体が、計画的な木材生産により、安定的に原木を供給していく体制を整え、将来見込まれる県内の木材需要に応えられる体制に移行していけるかが、このプロジェクトの成否を分ける鍵となっています。

安定供給から始まる地域振興

私たちは、年間を通じた木材の安定供給こそが、長期的に見て林業事業者の雇用の確保、収入の増加、そして地域の振興につながると考えています。

この実現のためのポイントは、以下の7点です。

①中期的な事業計画の策定

森林経営計画制度などを活用した林地の集約化により事業地を確保し、数年先までの事業計画を策定することが、安定供給、そして経営の安定へ

の第一歩となります。

また、利用間伐は、秋季から冬季に木材の生産時期が偏りがちですが、林況や森林所有者の意向も踏まえ、木材生産の年間を通じた平準化に取り組みます。

②技術者の確保・作業システムの構築

策定した事業計画を実行していくためには、その事業量に見合う林業技術者の確保と作業システムを構築することが必要となります。中期的な視点に立ち、高密路網による作業システムの実践に必要な施設整備や長期的な施業を受託できる技術者を養成します。

③山土場・中間土場での仕分け・直送の推進

並材については、短期的な値動きに拘泥せず、需要先との協定価格で安定的に直接供給することが、収益の最大化への近道です。このためには、山土場で需要者別の仕分けを行ったうえでの中間土場への出材のほか、山土場から木材需要者への直送を行い、流通コストを圧縮することが必須となります。

④皆伐の検討

人工林には、原則としていつか皆伐を行う時期が来ます。また、虫害を受けた林地は、早期に皆伐して再造林するのも選択肢のひとつです。持続的な林業経営のため、齢級の平準化とともに、木材の安定供給に効果的な皆伐の可能性を思考停止に陥ることなく検討することが必要です。伐出コストとシカ対策を含めた再造林コスト等との比較考量により採算の取れる林地の条件をスクリーニングし、その実行について関係者で合意形成を図ります。

⑤価格交渉力

大規模需要者への原木供給に関し、それに対峙できる交渉力を持つため、地域内で合意を形成し、流域の林業事業者が供給可能数量・時期を互いに調整したうえで、規格・数量・価格を決定する打合せに臨むといった、供給量を確保したうえで、大規模需要者に対し価格交渉力を持つことのできる仕組みを作る必要があります。

⑥原材料供給者の責任

どの産業にも原材料供給者には、需要者の求める規格の材料を供給する責任があります。木材需要者からの求めに応じた造材を臨機に行い、需要者に直送するといったマーケットインの意識で、定品質の原木を定時・定量供給していくことが、県内の林業・林産業全体の評価につながるという視点が必要です。関係者全体で県産材の需要者から求められる品質確保・安定供給に取り組んでいかなければなりません。

⑦地域内優先

重要な資源である木材は、原木のまま地域外(県外)に移出することを避け、地域内で加工し付加価値をつけてから、地域外に移出することが、地域振興に役立てるうえで効果的です。製材業などの地域産業の生産額の増加が、雇用の確保、生活圏の維持に直結します。国外のみならず、国内他地域との競争が激しさを増しており、上下流の連携を強化した地域材のブランド化に取り組むことも重要です。

おわりに

木材の安定供給体制の構築による木材の拡大再生産の実現が、林業事業者の経営の安定・雇用の確保・山林所得の増大をもたらし、それが森林の持つ多面的機能の発揮・林業の再生そして地域の振興につながっていくと信じております。これらが実現するよう関係の皆様には、本年も御支援・御協力のほどをお願いいたします。

また、市町をはじめとする会員の皆様には、中間土場の確保、公共事業の早期発注による夏季生産、公有林での積極的な素材生産をお願いいたします。

県庁だより②

本県林業、セカンドステージへ

経済産業部農林業局林業振興課 西室 康二

商売に必要なのは相手企業に信頼されることが重要。今年、合板工場を起動する株式会社ノダへの原料供給にも信頼されるパートナーとなることが大切と県の林業振興課から熱く語っていただきました。

商いを支える「信頼関係」

平成24年度の1年間を、私は日本一の木材商社で過ごしました。毎日、社員と営業活動に取り組み、木材製品の流通を一から勉強させていただきました。派遣当初は、木材製品の荷動きが悪く、価格も低迷していましたが、派遣終盤には状況が一変し、1年という短い時間でしたが、最近の相場の底から天井までを体感したのかもしれません。

この間、心に残ったことは数え切れないほどありますが、そのひとつに、「商売に必要なものは、まず信用」と感じたことがあります。確かに、単に損得だけで動く商売も相当ありましたが、モノがない時でも供給してくれる企業、モノがあふれている時でも調達してくれる企業。こういう商売をしてこそ、相手企業の信頼を得て、業績につながる。そんな思いを抱くことが何度もありました。

「信」じる「者」が近づいて、「儲け」になる。民間の商売の世界を知らなかった私が、研修を終えて、今でも思うことは、信頼できるパートナーを作ってお互いが支えあうこと、それが安定的な経営に必要なのではないかということです。

森林・林業の再生に呼応

現在、県では、本県の豊かな森林資源を活用するため、森林・林業再生に向けた「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」により、「需要と供給の一体的な創造」の取組みを進めており、県総合計画後期アクション

プランでは、平成29年度末までに年間の原木生産量50万立方メートルの達成を目指しています。

こうした中、本県発祥の総合建材メーカーである株式会社ノダ（以下、ノダ）は、本県が推進する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に呼応し、新たに合板工場を建設する検討を、平成25年3月4日にプレスリリースしました。

その後、ノダは、工場建設の絶対条件として原木の安定供給をあげ、静岡県森林組合連合会（以下、県森連）、各森林組合、素材生産事業者及び県などと協議を重ね、平成25年6月7日のノダ、県森連及び静岡県木材協同組合連合会による「原木安定供給のための覚書」の締結を経て、平成25年8月8日に、県森連及び静岡県民間素材生産事業者協議会のそれぞれと「原木の安定取引に関する協定」を締結しました。ノダは、この協定の締結により、合板工場の建設に着手、今日まで順調に建設を進め、来る平成27年2月12日に起動手を迎える運びとなりました。

県産材利用の3つの可能性

新たな合板工場は、ノダの富士川事業所内に建設され、年間13万2千立方メートルもの原木を加工する大型工場で、今までになかった県産材利用の3つの可能性を広げます。

①外国産材からの転換

この工場で作られる合板を、主に同社の主力製品であるフローリングの台板として利用するノダの取組は、

これまで外国産材が高いシェアを占めていた分野に、県産材利用の道を拓く画期的なものとなっています。

②全国への販売

ノダは全国に販売網を持っています。すでに、県産材原木を、清水港から宮城県石巻港に輸送し、子会社である石巻合板工業株式会社で生産した、先行販売用製品の販売を開始しており、県産材で作った製品を、日本全国に流通する取組を着々と進めています。

③様々な製品への利用

さらに、フローリング用の台板のほかにも、構造用合板や普通合板、合板型枠の生産を計画するなど、県産材利用の裾野を大きく広げる取組を進めています。

信頼されるパートナーへ

製材用原木の需要を支える200を超える製材工場とともに、まもなく合板工場が稼動し、県内に50万立方メートルの原木の受入先ができます。しかし、県内に、製材工場や合板工場など50万立方メートルの受入体制が整うことと、県内で生産される原木が受け入れられることは、同じではありません。

現在、「原木の安定取引に関する協定」を締結した供給側でも、県内各地で、原木の増産と品質管理の徹底に向けた取組が始まっていますが、今、本県の林業に求められていること、それは、信頼されるパートナーになることです。そのためには、原木のユーザーに対して、安定供給と品質管理の責任を果たさなければならないのです。

本県林業のセカンドステージに向けて、千載一遇のチャンスをもつするために、やるのは今です。

本部情報

県林研連絡協議会による 初めての静岡県林業者大会

はじめに

10月26日(日)、27日(月)の2日間、小笠山総合運動公園、東山地区生涯学習センターを会場に中遠地区林研と静岡県林業研究グループ連絡協議会主催の「静岡県林業者大会」が開催されました。「静岡県林業者大会」は通常、各地区林研が持ち回りで開催してきましたが、今年度はその1日目を県林研で企画運営する初めての試みで行いました。当日は林業への新規就労を希望している者を含め概ね100名が参加しました。



開会式

中山会長の挨拶で始まり、釜下掛川市環境経済部長、長谷川県林業振興課長及び榛村県森連会長が来賓としての出席のご挨拶をいただきました。その後、県林研主催の「若手林業技術者の技術・意識の向上と県内林業者の交流」をテーマに下記の催しを行いました。

事務局だより

未(ひつじ)年

あけましておめでとうございます。一年の過ぎるのは歳とともに加速度がつくように感じているこの頃です。今年十二支の未年、群れをなす羊は家族との絆を大切にす動物で、未年生まれば穏やかで優しく、正義感が強く真面目だといわれています。

リギングデモンストレーション (大井川林研担当)

静岡地区林研の片平氏及び森林組合おおいがわの加藤氏、森下氏の指導のもと、高所作業車が届かなく、足場が組めないなどの条件の悪い場所での森林作業を行う特殊伐採技術を紹介しました。

ロープ技術を駆使し、樹木への登攀、枝から枝や樹木間の移動や切取った枝や樹冠をロープにより巧みに降下させる技術など、参加者は固唾を飲んで見守りました。また、参加者はデモ終了後、ロープ等の道具について質問が相次ぐなど関心の高い催しでした。



林業機械選手権 (天竜林研担当)

径10cm、高さ30cmの丸太棒を4段積まれたものを左から右側に積み直す作業を0.2tグラブプルの使いタイムを競いました。非常に繊細な作業で選手は苦勞していましたが、ほとんどの選手が時間内にクリアしていました。



結果) 1位は落合製材所小池さん、2位は天竜フォレスター篠田さん、3位は掛川市森林組合の鷲津さんでした。

チェーンソー選手権 (静岡市林研担当)

勾配を付け寝かせた丸太2本を上下から切り、切り合わせの精密度を審査する競技で、多くの選手は切り合わせ部分がなかなかピタリと一致しなかった。

イヤーマフ、フェイスガードを装着し、スタートから最初の丸太、丸太間の移動時などにはチェーンブレイキの使用が必須で、その安全度についても評価の対象になりました。

結果) 1位は静岡市林研繁田さん(玉川きこり社)、2位は掛川市森林組合鷲津さん、3位は賀茂林研山本さんでした。



おわりに

当日午前中は何とか天気に恵まれましたが、午後の林業機械選手権頃から雨に祟られました。選手は最後まで熱心に競技を行い、周りの者も固唾をのんで応援をしていました。

当日の参加者には他のイベント等でも使える「木の名札」の配付や中遠林研担当による昼食時のしし鍋も振る舞われるなど、おおいに盛り上がったイベントとなりました。

読み進むうちにどちらにも例外の種があり、なかなか奥が深いことが分かりました。興味のある方は是非ひも解いてみたらいかがでしょうか。

(橋本)

公益社団法人
「森と人」 静岡県山林協会
編集・発行 静岡市葵区迫手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489